あるので、大切に保管すること。なお、成績表の再交付は行わない。

5. 所定の期間において、成績調査願を提出することで、単位修得に関する調査を依頼することができる。成績調査願の受付は、10月および3月で、提出先は学生センター教務課とする。詳細は掲示にて確認すること。

11. 留学について

学則第19条が規定する留学に対しては、一定の条件を備えた場合に限り、外国の大学での修得単位を本学の単位に認定する。

留学の諸手続にあたっては次の内規によらねばならない。

大学院学生の留学に関する内規

第1条 本大学の大学院学生が学則第19条により、外国の大学に留学する場合には、この内規に定めるところによる。

第2条 この内規にいう留学とは、研究科委員会において、その願い出が承認され、学長の許可を受けた場合をいう。

第3条 留学の期間は、原則として1年間を限度とする。ただし、特別の事情があるときには、更に1年以内の延長を認めることがある。

2 留学期間は、在学年数に算入する。

第4条 留学の許可を受けた者が、外国の大学において修得した単位のうち、研究科委員会が適当と認めた単位を10単位を限度として、本大学において修得したのものと認定することができる。

2 修得単位の認定に関する基準は、別にこれを定める。

第5条 留学を希望する者は、留学先大学の適否および履修科目等の適否について、研究科委員長および指導教授の指導を受けなければならない。

第6条 留学を希望する者は、留学先大学の入学許可証を添えて留学願を提出し、許可を得なければならない。

2 渡航前に留学手続が完了しない場合には、一旦休学願を提出して渡航し、留学先大学の履修要覧を本大学に送付し、留学先大学として適当であるとの認定を受けてから、入学許可証を添えて留学願を提出し、許可を得なければならない。

この場合、遡って休学の期間あるいは、その一部を取り消すことができる。

第7条 留学の許可を受けた者については、留学期間中の本大学における授業料その他納付金を減免する。

第8条 留学した年度の第1学期及び留学を終えて帰国した年度の第2学期において修得した授業科目の単位は、それぞれの年度に修得したのとする。

第9条 留学した年度の第1学期に履修していた通年の授業科目については、留学前に継続履修願を提出し、留学を終えて帰国した年度の第2学期にその授業科目を継続して履修することが認められた場合、通年で履修したものとみなす。

第10条 第4条の規定に基づき単位の認定を願出する者は、留学した大学の成績証明書及び履修要覧を添えて、留学に伴う単位認定願を提出するものとする。

第11条 留学先大学で修得した単位の認定は、研究科委員会が行う。

第12条 留学を終えて帰国した年度の第2学期に履修する授業科目の履修届は、9月末までに提出するものとする。

第13条 留学及び単位の認定に関する事務は、学生センター教務課が行う。